

姫路市における 認知症カフェの取組



地域包括支援課

第8期姫路市介護保険事業計画 (令和3～5年度)

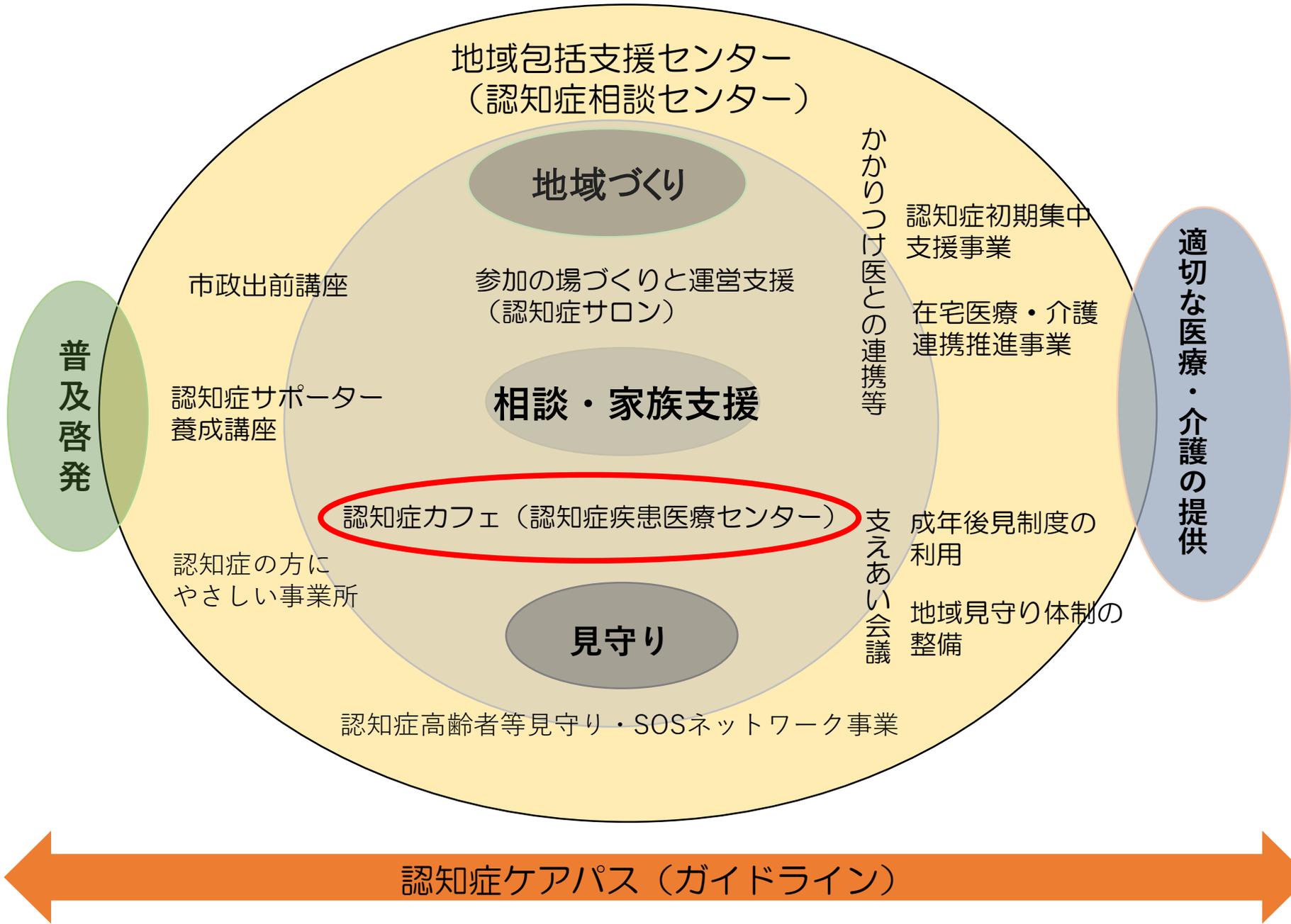
【基本目標】

認知症とともに暮らす地域の実現

【重点事項】

- ・ 認知症にやさしい地域づくり
- ・ 認知症になるのを遅らせるための取組
- ・ 認知症になっても
地域で暮らし続けるための取組

姫路市 認知症施策全体図



認知症サロン

【開始】 平成26年7月

【位置づけ】

認知症の人と家族が地域住民とともに過ごせる継続的な通いの場

【目的】

- (1) 認知症への理解の促進
- (2) 高齢者の地域での孤立防止
- (3) 認知症（MCI）の早期発見・進行予防

【課題】

地域包括支援センターが立ち上げ及び運営の支援を行っているが、常駐の専門職が確保できていない。

⇒専門職常駐の認知症カフェの創設を検討

認知症カフェ(オレンジカフェ)

【目的】

認知症の人及びその家族が気軽に集い、悩みを共有し合いながら専門職(社会福祉士、精神保健福祉士、保健師、看護師、作業療法士等)に相談できる集いの場を整備し、認知症の人を介護する家族の負担軽減を図ることにより、認知症の人が住みなれた地域で安心してその人らしい生活を継続できる地域づくりに資すること

【内容】

- (1) 利用者相互の交流や情報交換
- (2) 認知症に関する相談
- (3) 認知症の学びにつながる勉強会(講演・講話等)

【対象者】 市内に住所を有する認知症の人及び介護者家族等の参加希望者

【回数】 月1回

【定員】 1回当たり30人以下

【時間】 1回当たり1時間30分

認知症カフェの創設に向けて（認知症サロンとの違い）

事業	認知症カフェ	認知症サロン
対象者	市内在住の認知症と診断された人とその家族	地域住民 (認知症であるか否かは問わない)
目的	医療系専門職による相談・助言 家族同士の交流を目的としたピア活動	認知症への理解の促進 高齢者の地域での孤立防止 認知症（MCI）の早期発見・進行予防
開催場所	認知症疾患医療センター内 令和5年度1か所設置	地域の公民館等 R5年1月末現在 95か所
配置人員	社会福祉士・精神保健福祉士・保健師・看護師・作業療法士等の専門職1名以上	認知症サポーター
内容	治療や介護に関する相談会 レクリエーション 茶話会	レクリエーション 茶話会
地域包括支援センターの役割	必要時の連携 周知・啓発	立ち上げ支援 運営支援

⇒既存の認知症サロンとの違いを整理し、令和5年度、姫路中央病院認知症疾患医療センターに認知症カフェを創設

9月21日は 世界アルツハイマーデー

認知症への理解を深め、患者本人やその家族に手を差し伸べ、希望をもたらすことを目的に制定された「世界アルツハイマーデー」。本市でも関連する取り組みを実施しています。▶地域包括支援課・☎221-2451



広報ひめじ

掲載記事

認知症カフェ (オレンジカフェ)



7年には、高齢者の5人に1人が認知症になると言われています。また、65歳未満で発症する若年性認知症もあり、認知症は誰にとってもひとつごとではありません。本市では今年度から、患者や家族が気軽に参加できる「認知症カフェ」を開設しています。

認知症カフェの内容

- ★患者や家族同士で、悩みなどを話し合えます
- ★専門家（医師、看護師、社会福祉士など）に相談できます
- ★医療スタッフによる講演や体操なども



オレンジ ライトアップ



姫路城とアクリエひめじを、認知症支援のシンボルカラーであるオレンジ色にライトアップします。

◆日時 9月21日(木)、①姫路城 日没〜午前0時②アクリエひめじ 日没〜午後10時



詳しくは
ウェブサ
イトで



ID:6275

- ◆日時 毎月第4金曜日、午後1時半〜3時
- ◆対象 市内在住で、認知症と診断された人とその家族
- ◆場所 医療法人公仁会姫路中央病院認知症疾患医療センター（飾磨区三宅2の36・☎2357353）
- ◆参加方法 中央病院（右記）に直接問い合わせてください

「ピアサポート」で思いを共有 市内初、専門医療機関内の「認知症カフェ」

認知症患者やその家族、医療スタッフや地域の人などが気軽に参加できる「認知症カフェ」。悩みを共有したり、サポートや交流を行ったりと、さまざまな取り組みが全国で広がっています。姫路市では今春、姫路中央病院で認知症カフェがスタート。市内の認知症疾患医療センターでは初の開設です。



社会とつながる安心の場に

も忘れや判断力の低下などで「認知症」は患者だけでなく、その家族にとっても大きな悩み、中には外出するのがおっくうになり、社会の関わりを持ちづらいと感じる人も多いようです。そこで、認知症の理解を深め、ために始まったのが「認知症カフェ」です。患者と家族が社会とつながる機会を設けることで、普段は口にしては、思いを吐き出した、悩みを相談したり、また当事者による気持ちや考えの発信を通して、地域の人にも認知症の理解を促進する役割があります。

姫路市では、患者や家族同士が悩みや思いを共有し、互いに支え合うピアサポートを重視した認知症カフェ「よつばカフェ」を今年4月、認知症疾患医療センターである姫路中央病院に新設。「ピアサポート」によって患者やその家族が思いを打ち明けられる場があることが、地全体での認知症のサポートにつながるのを感じます。認知症になっても気軽に参加できる、安心できる場があることを覚えておいてください」と姫路市地域包括支援課の兼子芳文さんは語ります。



「よつばカフェ」を運営する姫路中央病院の医療スタッフのみなさん。患者からは「会うと安心して元気がもらえる」という声も。

リビング姫路

掲載記事

※ 拡大版は次ページにあります。

素直な言葉が共感を生む

「よつばカフェ」の第1回目は、患者とその家族、姫路中央病院の医療スタッフが参加同院の理事長、東靖人さんによるミニ講演で始まり、認知症の種類によって対処法が異なるため、認知症の「正しい理解が必要」と言っています。

続いて、車座になった交流会。医療スタッフの明るい声掛けによって浮腫から和やかな雰囲気、参加者が積極的な発言が続きました。家族からは「常に見守っていないと不安になる」「患者とつい言い争ってしまう」といった悩みが、患者からは「一人に迷惑をかけているのではないかと気になる」「多乗直な気持ちで打ち明けられ、思わず深くうなずく場面も。みませんか。」

中には過去に第三者から受けた冷たい対応に悲しい思いをしたという人もいました。交流会に参加した認知症患者の裕さんは「認知症に特化した当院でよつばカフェを開催することで、患者さんやご家族の気持ちが楽になりました。サポートができて思いが伝わるといいですね」と言います。総じて、参加者から「来て良かった」「いろいろ考えが聞けて気持ちが楽になった」などの声があがり、どこかほっとした様子でいなくなりました。

「よつばカフェ」は、姫路中央病院以外の病院に通う人も参加できます。認知症にまつわることで悩みを抱えている人は、一度足を運んで

よつばカフェ
開催日時/ 毎月第4金曜日
午後1時半～3時
※会場内1階の玄関で午後1時から受け付け
※2月は第3金曜日に変更予定
場所/ 姫路中央病院附属クリニック
1階カンファレンスルーム
(姫路市飾磨区上野田1-16-1)
対象/ 認知症患者とその家族
参加費/ 無料
申し込み/ 電話で問い合わせを

【問い合わせ】
「よつばカフェ」
姫路中央病院 認知症疾患医療センター
TEL.079-235-7353
認知症の行政サポートに関すること
姫路市健康福祉局 長寿社会支援部
地域包括支援課
TEL.079-221-2451

スタッフの皆さんのコメント

日常で言いたいことも、「よつばカフェ」で打ち明けてもらいたいです

きつと仲間と出会う場になんとも思っています

認知症看護認定看護師 稲田ゆかりさん

認知症疾患医療センター長 小西吉裕さん



ミニ講演を行う姫路中央病院理事長の東靖人さん

「ピアサポート」で思いを共有 市内初、専門医療機関内の「認知症カフェ」

認知症患者やその家族、医療スタッフや地域の人などが気軽に参加できる「認知症カフェ」。悩みを共有したり、サポートや交流を行ったりと、さまざまな取り組みが全国で広がっています。姫路市では今春、姫路中央病院で認知症カフェがスタート。市内の認知症疾患医療センターでは初の開設です。



社会とつながる安心の場へ

もの忘れや判断力の低下など、さまざまな症状が、「毎回通わなければならない」「決められたプログラムをしなければならぬ」といった利用者もおっくうになり、社会との関わりを持ちづらいと感じている人も多いようです。そこで、認知症の理解を深めるために始まったのが「認知症カフェ」。患者と家族が社会とつながる機会を設けることで、普段は口にはできない思いを吐き出したり、悩みを相談したり。また当事者による気持ちや考えの発信を通して、地域の人にも認知症の理解を促進する役割があります。

活動の内容はカフェによって、姫路市では、患者や家族同士が悩みや思いを共有し、互いに支え合うピアサポートを重視した認知症カフェ「よつばカフェ」を今年4月、認知症疾患医療センターである姫路中央病院に新設。「ピアサポート」

「よつばカフェ」の第1回目は、患者とその家族、姫路中央病院の医療スタッフが参加。同院の理事長・東靖人さんによるミニ講演で始まりました。認知症は種類によって対処法が異なるため、認知症の「正しい理解が必要」と言っています。

素直な言葉が共感を生む

「よつばカフェ」は、患者や家族が思いを打ち明けられる場があることが、地域全体の認知症のサポートにつながると思います。認知症になっても気軽に参加できる、安心してできる場があることを覚えておいてください」と姫路市地域包括支援課の兼子芳文さんは語ります。

「よつばカフェ」の第1回目は、患者とその家族、姫路中央病院の医療スタッフが参加。同院の理事長・東靖人さんによるミニ講演で始まりました。認知症は種類によって対処法が異なるため、認知症の「正しい理解が必要」と言っています。



「よつばカフェ」を運営する姫路中央病院の医療スタッフのみなさん。患者からは「会おうと安心して元気がもらえる」という声も。

「よつばカフェ」は、姫路中央病院以外の病院に通う人でも参加できます。認知症にはないかと気になる「素直な気持ち」が打ち明けられ、思わず深くうなずく場面も。みませんか。

よつばカフェ
開催日時／毎月第4金曜日
午後1時半～3時
※会場内1階の玄関で午後1時から受け付け
※2月は第3金曜日に変更予定
場所／姫路中央病院附属クリニック
1階カンファレンスルーム
(姫路市飾磨区上野田1-16-1)
対象／認知症患者とその家族
参加費／無料
申し込み／電話で問い合わせを

【問い合わせ】
「よつばカフェ」
姫路中央病院 認知症疾患医療センター
TEL.079-235-7353
認知症の行政サポートに関すること
姫路市健康福祉局 長寿社会支援部
地域包括支援課
TEL.079-221-2451

スタッフの皆さんのコメント

日常で
言いにくいことも、
「よつばカフェ」で
打ち明けて
もらいたいです

きっと仲間と
出会える場にな
ると思います

認知症看護認定看護師
稲田ゆかりさん

認知症疾患医療センター長
小西吉裕さん



ミニ講演を行う姫路中央病院理事長の東靖人さん

認知症カフェ参加者数 (令和5年4月～7月)

参加者		参加延数		
			65歳以上	65歳未満
本人	確定診断あり	16	16	0
	疑い	0	0	0
	診断未	1	1	0
	年齢相応	1	1	0
	不明	3	3	0
家族		34	—	—